

1. 評価結果概要表

作成日 平成19年 11月10日

【評価実施概要】

事業所番号	3493500015
法人名	株式会社 なごみ
事業所名	グループホームなごみの里
所在地 (電話番号)	広島県山県郡安芸太田町大字加計5193 (電 話) 0826-25-0330

評価機関名	(社福)広島県社会福祉協議会		
所在地	広島県広島市南区比治山本町12-2		
訪問調査日	平成19年11月5日	評価確定日	平成19年12月5日

【情報提供票より】(平成19年10月16日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成19年1月1日	
ユニット数	1 ユニット	9 人
職員数	9 人	常勤 6人, 非常勤 2人, 常勤換算 7.5人

(2) 建物概要

建物形態	併設/○単独	○新築/改築
建物構造	準耐火造	
	地上1階建1階部分	

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	40,000 円	その他の経費(月額)	20,000 円	
敷 金	有(円)	○無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円)	有りの場合 償却の有無	有/○無	
食材料費	朝食	- 円	昼食	- 円
	夕食	- 円	おやつ	
	又は1日 1,000円			

(4) 利用者の概要(10月16日現在)

利用者人数	9 人	男性	2 人	女性	7 人	
要介護1	2 人	要介護2	3 人			
要介護3	4 人	要介護4	0 人			
要介護5	0 人	要支援2	0 人			
年齢	平均	86 歳	最低	79 歳	最高	94 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	安芸太田町加計病院 , 市村歯科医院
---------	--------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

永年にわたり現場で介護に携わってこられた管理者の思いや願いが、ホームの理念や居室等の生活空間へ反映されており、利用者のその人らしさを大切にしながら日々の暮らしの中に活かされています。食事やおやつづくりに、ホームの畑で収穫された野菜や地域の人からの差し入れの食材が調理されている他、昔ながらの手法で作られた梅干、らっきょう、粕漬、味噌、茶の葉を備蓄するなど、理念の一つである「食」を重視した支援が行われています。また、利用者の「できること」「やりたいこと」の把握に努められており、畑づくりや草とり、グランドゴルフなど、利用者の持つ力を日々の生活の中で活かせるよう声かけや場面づくりの工夫が行われています。その取り組みの一つとして、洋裁を職業としてきた利用者に衣類の裾上げや繕い物を行っていただいております、特技を活かした役割づくりを行うことが利用者の自信へつながっています。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4) 第1回目の評価のため、特になし。
	②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) ① 管理者は、評価の意義を理解し、前向きに取り組まれています。現時点では、全職員で評価に取り組む体制までには、いたっていません。今後は、サービスの質向上に向けた取り組みを行うきっかけの一つとして自己評価・外部評価に取り組む、全職員が評価のねらいや活用方法を理解したうえで、管理者を含めた全職員で自ら提供するサービスの振り返りを行われることを期待します。
重点項目	②	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6) 運営推進会議は、利用者、家族、地域包括支援センターの保健師、川北地区社会福祉協議会会長、職員で構成され、現在までに2回開催されています。次回の会議では、評価の取り組み状況を報告し、評価結果をもとに話し合いを行う予定とのことです。さまざまな立場からの意見を、質向上と改善のための具体的な取り組みに向けた検討へつなげてください。
重点項目	③	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8) 家族の訪問時には、報告・連絡・相談が行われており、家族からの意見や不満、苦情を前向きに捉え、それらをサービスの改善に活かせるよう体制が整えられています。また、年2回家族会を開催し、家族同士の交流の機会とするとともに、ホームの食事を家族が味わうなどの取り組みが行われており、家族が意見を表しやすい雰囲気づくりの工夫がすすめられています。
重点項目	④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) 福祉まつりやコンサートなどの地域行事に積極的に参加されている他、ホームの敬老会に地域の人を招待するなど、利用者や地域の人、日常生活の中で、時間や経験を共有できるような取り組みがなされています。また、ホームの存在が住民から理解されるよう、あいさつなどの働きかけが行われており、毎日の散歩やあいさつを通して顔なじみになった住民と声をかけあったり、野菜や果物などの差し入れやおすそわけなど、地域との関係づくりが行われています。

2. 評価結果（詳細）

（ 部分は重点項目です ）

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	永年にわたり現場で介護に携わってこられた管理者の思いや願いをこめた4つの具体的な理念がホーム独自でつくられており、玄関のよく見える位置に掲げられています。	○	開設して間もないため、日々のケアにおける具体的な関わりの方針を示した理念が作成されており、実践として活かされています。今後は、地域に密着したサービス主体として、地域との関係を通してホームの役割が認識できるよう、さらに工夫されることを期待します。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	ミーティングや日々のあらゆる場面の中で、理念を共有するための働きかけが行われており、ホームの理念が日々の暮らしの中で実践できるよう、全職員の理念の周知徹底に取り組まれています。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	福祉まつりやコンサートなどの地域行事に積極的に参加されている他、ホームの敬老会に地域の人を招待するなど、利用者と地域の人が、日常生活の中で、時間や経験を共有できるよう取り組まれています。また、ホームの存在や意義が住民から理解されるよう、あいさつなどの働きかけが行われており、毎日の散歩やあいさつを通して顔なじみになった住民と声をかけあったり、野菜や果物などの差し入れやおすそわけなど、地域との関係づくりが行われています。	○	地域住民との積極的な交流が行われていますので、これらの取り組みをステップアップするため、町内会へ入会し、さらに地域との交流を深めるとともに、利用者が地域の中で、役割を実感できるような場面づくりを行うなどの取り組みをすすめることを期待します。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	管理者は、評価の意義を理解し、前向きに取り組まれています。現時点では、全職員で評価に取り組む体制までには、いたっていません。	○	今後は、サービスの質向上に向けた取り組みを行うきっかけの一つとして自己評価・外部評価に取り組む、全職員が評価のねらいや活用方法を理解したうえで、管理者を含めた全職員で自ら提供するサービスの振り返りを行われることを期待します。
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は、利用者、家族、地域包括支援センターの保健師、川北地区社会福祉協議会会長、職員で構成され、現在までに2回開催されています。次回の会議では、評価の取り組み状況を報告し、評価結果をもとに話し合いを行う予定とのことですので、さまざまな立場からの意見を、質向上と改善のための具体的な取り組みに向けた検討へつなげてください。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	町の主催により月1回開催されている「地域ケア会議」において、共通のテーマについての話し合いや情報交換が積極的に行われています。また、町福祉課が町立病院内にあるため、利用者の受診の機会をとらえて、相談や情報提供が日常的に行われており、サービスの質向上に向けた連携が図られています。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	月に1回、請求書を送る際に、写真やメッセージを添えて、利用者のホームでの暮らしぶりが細やかに報告されています。また、家族が訪問しやすい雰囲気づくりに努められており、訪問時には、報告・連絡・相談が行われています。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族からの意見や不満、苦情を前向きに捉え、それらをサービスの改善に活かせるよう体制が整えられています。また、運営推進会議のメンバーとして家族がホームの運営に参加されている他、年2回家族会を開催し、家族同士の交流の機会とするとともに、ホームの食事を家族が味わうなどの取り組みが行われており、家族が意見を表しやすい雰囲気づくりの工夫がすすめられています。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	管理者は、職員の離職等による利用者への影響について理解し、なじみの関係が継続できるよう配慮されており、現在までに職員の離職はありません。職員は利用者から慕われており、なじみの職員との生活が利用者の安心感へつながっています。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	必要に応じて管理者や看護職員が研修に参加されています。また、認知症ケア専門の月刊誌を数冊定期購入されており、ケアのスキルアップに取り組まれています。	○	今後は、研修計画を立てて、全職員が研修に参加できるよう体制づくりをすすめてください。また、研修内容を報告する場を設け、研修に参加した職員だけでなく、全職員が知識や技術を共有できるよう工夫されることを期待します。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	毎月1回、町主催の会議へ参加したり、グループホーム研修の参加やケアマネ協議会等において、地域の同業者との交流が行われている他、管理者は、他の同業者との交流を通して、運営上の相談を行うなど、協働してサービスの質向上に取り組まれています。同業者とのネットワークづくりにはいたっていません。	○	今後も、地域の同業者との交流を深め、幅広く連携を図りながら、ホームのサービスの質向上にとどまらず、地域の福祉サービスの質向上に、協働して取り組まれることを期待します。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用者がホームになじみながらサービスの利用開始が行えるよう配慮されていますが、家族の事情が優先され、本人が充分ホームになじめないまま、利用開始という例がありました。	○	本人の納得を得ないままでの利用開始は、利用者へのリロケーションダメージが大きく、混乱や不安にもつながります。やむを得ず家族の事情が優先される場合であっても、体験利用の機会を設けるなど、一人ひとりの状態に合わせた工夫を行い、利用者が納得し、安心してサービスの利用が行えるよう取り組まれることを期待します。
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜ぶ哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は、さりげなく傍らに寄り添う姿勢を大切に、利用者が安心して暮らせるよう関係づくりに努められています。また、美容師の経験のある職員が、利用者の毛染めやパーマを行い、利用者にとって日常の整容や外出時のおしゃれへの意欲につなげるなど、「介護」という枠組みをこえた生活づくりがすすめられています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用前に面談を行い、利用者の個性や生活習慣、暮らし方の希望などの把握に努められています。また、利用者が直接、表現することの難しい思いの汲み取りに配慮し、家族やケアマネ、他の関係者と連携を図りながら、一人ひとりの思いや意向の把握が行われています。	○	利用者一人ひとりを理解し、思いや願いを尊重するため、センター方式の活用を現在検討されていますので、介護のためのアセスメントのみならず、その人らしい生活を支えるためのアセスメントとして活用されることを期待します。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	その人らしい暮らしを大切にするため、利用者や家族、関係者からの意向の把握に努められており、これらが反映された介護計画となるよう取り組まれています。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	2, 3か月に1回、定期的に介護計画の見直しが行われている他、利用者の状態の変化に応じた見直しが行われており、利用者の現状に即した具体的な計画となるよう取り組まれています。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	看護職員による通院介助が行われている他、里帰り、墓参りへの職員の同行など、家族の協力も得ながら本人の希望や要望に応じた、柔軟な支援に取り組まれています。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者のかかりつけ医である町立病院の医師と緊密な連携を図りながら、利用者の健康管理に努められています。また、週に1回の歯科医の往診により、口腔ケアに取り組まれるなど、利用者の健康を支援する体制が整えられています。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	現在は対象となる利用者はいませんが、「自然な形で、最後までホームで」という家族の気持ちに配慮し、日常の健康管理や看取りの必要が生じた場合の対応の方針について定められており、利用者や家族が安心感が得られるように取り組まれています。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	日々の暮らしの中で、職員は、一人ひとりのプライバシーやプライドに配慮した言葉かけを心がけられており、訪問時には、「この職員さんはみんなええ人よ」という話される利用者の表情からも、利用者との信頼関係が築かれていることが伺えました。	○	さらに地域に開かれたホームづくりをめざされていますので、利用者の個人情報の取扱いについては細心の注意を払うよう、職員間で周知徹底を行い、利用者のプライバシーが損なわれないよう十分な配慮を行ってください。
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	何事にも臨機応変な対応を心がけておられ、無理強いをせず、一人ひとりのペースが尊重された暮らしの支援が行われています。職員は、「その人のペースに寄り添うのが私の役割」ということを認識されており、その人のペースで暮らすことで笑顔の多い生活が送れるよう取り組まれています。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	調理や後片付け、食事前の声かけなど、利用者のできることに応じた役割を担ってもらい、全員で食事の準備等を行われています。職員は、一人ひとりの身体状況にあった椅子を用意し、食事の時間はテレビを消し、利用者の話を引き出したり、相づちをうつなど、ゆったりと食事と会話を楽しめるように支援されています。また、調理の工夫によって、嫌いな食材が食べられるようになった利用者もおられ、「食」を大切にしたい支援が行われています。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	家庭浴槽での入浴が毎日行われており、入浴の順番について利用者と話し合いながら一人ひとりがゆっくり自分のペースで入浴できるよう配慮しながら、安全で快適な入浴支援に取り組まれています。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者の「できること」「やりたいこと」の把握に努められており、畑づくりや草とり、グランドゴルフなど、利用者の持つ力を日々の生活の中で活かせるよう声かけや場面づくりの工夫が行われています。また、洋裁を職業としてきた利用者や衣類の裾上げや繕い物を行っていただくなど、特技を活かした役割づくりが行われており、生活の中で、役割を持つことが利用者の自信へとつながっています。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	馴染みのコースを1時間から1時間半かけて休憩をはさみながらゆっくり歩く散歩が日課となっている他、地域で行われるコンサートへ出かけたり、バスハイクで紅葉狩りを楽しむなど、季節の移り変わりを感じたり、音楽を楽しんだりして気分転換できるよう取り組まれています。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	鍵をかけないケアを行っていますが、ホームの近くを国道が通っているため、玄関に出入りを知らせるチャイムをとりつけ、利用者が外に出られた場合に職員が気づけるように工夫されている他、地域の人のなじみの関係があるので地域の人の協力と見守りによって、安全面に配慮されています。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	災害を想定した訓練や避難方法についての周知徹底が不十分のようです。今後、火災時を想定した、避難訓練を実施する予定のことです。今後、職員と利用者が一緒に訓練を行い、いざという時に慌てず避難誘導ができるよう取り組みをすすめることを期待します。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事やおやつづくりに、ホームの畑で収穫された野菜や地域の人からの差し入れの食材を調理されている他、昔ながらの手法で造られてた梅干、らっきょう、粕漬け、味噌、茶の葉を備蓄するなど、理念に掲げられたとおり、「食」を重視した支援が行われています。また、散歩の際にはポットを持参し、お茶休憩をとるなど、暮らしの中で、利用者が自然に水分を摂取できるよう心がけられています。	○	「食」を大切にし、利用者が楽しんで食事の時間を過ごせるよう努められています。今後は、栄養バランスについて定期的に専門職からアドバイスを受けるなど、さらにステップアップした取り組みが行われることを期待します。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	平屋造りのホームの玄関から庭へと続くゆるやかなスロープの傍らには四季折々の花が植えられており、移動のしやすさと、目を楽ませる配慮が行われています。また、天窓や掃き出し窓から、自然光が十分に届き、明るい共用空間となっています。「食」を重視したホームのキッチンアイランド型でリビング全体が見渡せるほぼ中央にあり、昼食後には、利用者が窓際に敷かれたカーペットなど思い思いの場所でくつろぐ姿が見うけられました。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	各居室に洗面台、トイレが設置されており、利用者のプライバシーが確保できるよう配慮されています。また、利用者の使い馴れたなじみの家具や大切にしている物が持ち込まれており、本人の希望や使いやすさを考慮した居室づくりがすすめられています。利用者のタンスの引き出しに、「たからもの」と書かれたシールが貼られており、利用者一人ひとりの生活や思いを尊重した、居心地よい空間づくりが行われていることが確認できました。		

介護サービス自己評価基準

小規模多機能型居宅介護
認知症対応型共同生活介護

事業所名 グループホームなごみの里

評価年月日 H19年 11月 5日

記入年月日 H19年 11月 5日

※この基準に基づき、別紙の実施方法
のとおり自己評価を行うこと。

記入者 職 氏名 込山 美紀

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
----	----	---------------------------------	------------------------	---------------------------------

I 理念の基づく運営

1 理念の共有

1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている。	独自の理念を作っている。		
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。	毎月のカンファレンスまたはスタッフ会議で話しているが、各職員に伝わっているかは不明。	○	各職員に浸透するよう、理念を大きく書いて額に入れ、玄関ホールにかける。
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる。	家族には入所前の説明で理念を話しているが地域の人に理念を理解してもらっているかは不明。		

2 地域との支えあい

4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている。	①よく野菜や漬物をいただいたりしている。 ②敬老会には参加していただいたりしている。 ③近所の店では、利用者さんと気軽に立ち寄り雑談をしている。		
5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。	① 町内の福祉祭りに参加した。 ② 町内のコーラス会に鑑賞に行く		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。		○	社協と連携し介護教室など開催していきたい。
3 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。		○	評価は初回です。これから具体的に取組んでいきたい。
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	まだ1回しか運営会議をしていない。		これから、どんどん意見を聞いていきたい。
9	○市町との連携 事業所は、市町担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町とともにサービスの質の向上に取り組んでいる。	① 管理者が月1回地域ケア会議に参加。 ② 看護師が協力病院の中に役場の福祉課があり受診の合間などに相談したりしている。		
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している。	現在制度を利用する予定の人はいない。		
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	スタッフ会議等で話し合いを重ねている。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
----	----	---------------------------------	--------------------	---------------------------------

4 理念を実践するための体制

12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約する際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	十分説明し納得してもらっている。		
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらの運営に反映させている。	利用者より意見ができればカンファレンス等で話し合い検討している。		
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている。	① 毎月の請求書と一緒に各利用者さんの様子を書き送っている。 ② 家族が来所時に様子を説明している。		
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	現在苦情等は聞いていない。		
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	月1回のスタッフ会議や管理者が各職員より聞いている。		
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている。	勤務の変更は随時すぐには実施している。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。	職員の移動は今の所はありません。		
5 人材の育成と支援				
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	管理者、看護師は協会等の研修にでていますが、他職員については未定。	○	今後他職員にも研修を受ける機会を設ける予定。
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。	GHの研修会に行き他GHのスタッフの方々と交流したが、ネットワーク作りまでには至っていない。	○	今後どのようなネットワーク作りができるか模索していく。
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。	管理者が各職員の悩みを聞き相談に応じている。		
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている。	① お互いに良い面は認め合う。 ② 給料面については、現在同じ時給。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
1 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている。	本人との話し合いをしっかりとる。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。	事前に話し合いをもち、受け止めるようにしている。		
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。		○	地域のサービスを把握する必要がある。
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気になら馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している。	事前に来所してもらった人もあれば、いきなり入所という方もある。		
2 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人を共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜ぶ哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	出来る限り一緒に過ごし話をしている。		
28	○本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	年2回、家族会を予定している。 今年は7月に開催した。次は11月にする予定。		
29	○本人を家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している。	来所時や電話などでよい関係が築けるように相談、助言等している。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	① 病院受診時や買い物時にはゆっくり話ができるようにしている。 ② 自宅訪問を実施。		
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている。	散歩やレクリエーション等に誘い、共同空間で過ごしてもらう工夫をしている。		
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている。	現在はなし。		

Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

1 一人ひとりの把握

33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	個々の希望を把握している。		
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	個々の今までの趣味や好きなことを家族や近隣の方から聞き、本人にできることをしてもらったりしている。		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている。	している。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
----	----	---------------------------------	--------------------	---------------------------------

2 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し

36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している。	作成している。		
37	○状況に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。	作成している。		
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	個人の記録をしている		

3 多機能性を活かした柔軟な支援

39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている。	なし。これは小規模多機能介護のこと？		
----	--	--------------------	--	--

4 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働

40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している。	近隣の文化センターでの催しものに行く。		
----	---	---------------------	--	--

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネージャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている。	他のサービスの利用はできないのではないのか？		
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している。	運営推進会議のメンバーに、地域包括支援センターの保健師さんがおられて、助言等していただいている。		
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるよう支援している。	定期的を受診している。		
44	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している。	定期的を受診している。		
45	○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。	看護師 1 人常勤で勤務しているので、健康管理には気を配っている。		
46	○早期退院に向けた医療機関と協働 利用者が入院したときに安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している。	定期的にお見舞いをしたりして、病棟の看護師または担当医師や理学療法士とも情報交換している		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い全員で方針を共有している。	模索中。		
48	○重度化や週末期に向けたチームでの支援 重度や週末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医等とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。	模索中		
49	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに勤めている。	自宅へ帰られた方は、情報を提供した。		

IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

1 その人らしい暮らしの支援 (1) 一人ひとりの尊重

50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない。	していません。		
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている。	その都度対応している。		
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	希望は聞くように努めているが、入浴時間等対応ができない場面もある。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
----	----	---------------------------------	--------------------	---------------------------------

(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援

53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。	美容師の資格を持った介護スタッフがおり、個々の希望を聞いて、ホームでパーマをかけたり髪を染めたりカットしたりしている。		
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	野菜の皮とりや切ったりしたりしてもらっている。茶碗洗いやお盆を拭いてもらったりしている。		
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している。	一人一人の好みをきいて嫌いなものがあれば別のものを用意したりしている。		
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している。	個々の排泄表を作りチェックしている。		
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している。	毎日入浴している。入浴札を作り、トップバターを決めている。タイミングが悪ければ臨機応変に対応している。		
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している。	眠れないときには夜間いつでもお茶や饅頭が準備できるようにしている。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
----	----	---------------------------------	--------------------	---------------------------------

(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援

59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々の過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている。	一人ひとりの支援を出来る限りでしている。		
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	所持できる人にはしてもらっている。		
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している。	散歩にできるだけ午前中に出かけている。1時間から1時間半くらい。		
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり支援している。	家族に機会を作ってもらったりみんなで外出の機会を作っている。」		
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自ら電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	公衆電話を設置して、自らしてもらったり、手紙のやり取りもしてもらったりしている。		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している。	いつでも訪問できるようにしている。来られたら自室で話してもらったり、している。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(4) 安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	身体拘束はしていません。		
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる。	開所当時は夕方より玄関ホール入り口に鍵をかけていたが、そのドアにチャイムをつけて出入りがあればわかるようにした。		
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している。	徘徊の激しい方は随時居場所確認している。		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている。	縫い針等は裁縫箱に数を書いて終う時には確認する。		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。	① 冷蔵庫横に薬いれをかけて一人一人分包している ② なるべく、スリッパを使用せず滑り止めのついた靴下を履いてもらっている。		
70	○急変や事故発生の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期期に行っている。	していない。	○	する予定。

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
71	○災害対策 火災や地震, 水害等の災害時に, 昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身に付け, 日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている。	やっていない。	○	火災訓練を具体的に計画中。
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し, 抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている。	危ない家具などは持ち帰ってもらったり、コロ付きの家具はコロをどけてもらったりしている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め, 気付いた際には速やかに情報を共有し, 対応に結び付けている。	① 毎日バイタルサインチェックしている。 ② 介護記録をかいている。 ③ 申し送り簿を書き伝達している。		
74	○服薬支援 職員は, 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用, 用法や用量について理解しており, 服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	みんながわかる場所に各利用者の内服がわかるようにしている。		
75	○便秘の予防と対応 職員は, 便秘の原因や及ぼす影響を理解し, 予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる。	① 排泄表をチェックして定期的に排便や下剤を内服してもらっている。 ② 運動(午前中の散歩) ③ 料理は野菜が中心		
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように, 毎食後, 一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている。	① 毎食後の口腔ケアを実施 ② 入れ歯は寝るときはあ外しポリデントにつけている ③ 毎週歯科医院より往診してもらっている。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べれる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	① お茶が飲みにくい場合は好みの飲み物を勧める。 ② 少食の方には全体に少なく盛り付ける。		
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している。 (インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	玄関ホールに手指用アルコール消毒剤設置		
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている。	① 定期的にまな板とふきんはブリーチにつける。 ② 食器は乾燥機にかけている。		
2 その人らしい暮らしを支える生活環境づくり (1) 居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りが出来るように、玄関や建物周囲の工夫をしている。	玄関周りや建物の周りには、花を植えている。春には畑と玄関周りにチューリップが1000球咲いた。		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	① 食堂には天窓があり光が入るようにしている。 ② 居間は南向きで光が入り明るい。 ③ 周囲は田んぼで静か。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共有空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	和室周囲やリビングにソファを置き利用者が思い思いに過ごせるように配置している。		
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	本人さんの使い慣れたものを何か置いてもらうようにしている。		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のよどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている。	窓を開けたり、床暖房をしたりしている。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	手すり設置、バリアフリー、和室の段差が以前は木の床材だったが滑りやすく危なかったため、じゅうたんを貼り付けた。		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している。	その都度説明納得はしてもらっているが、認知があり、なかなか自立になっていないと思う。		
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている。	① 庭では時折グランドゴルフをしてもらっている。 ② 平屋なのでベランダはない。		